

科目名	欧米経済論	科目分類	■専門科目群 □総合科目群	
			経済学科	□必修 ■選択
			学科	□必修 □選択
英文表記	Western Economics	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年	
		開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中	
ふりがな	ふかさわ やすお	実務家教員担当 科目	修得単位	2単位
担当者名	深澤 太郎	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用	
授業のテーマ	主に、米国経済とヨーロッパ経済が国際金融体制にどのように関与しているかを学ぶ。			
到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1. 欧州・米国経済の概要が、国際金融体制との関連の中で理解できる。 2. 日本経済新聞の国際関係の記事の理解度が、大幅に上昇し周りの人に説明することができる。			
授業概要	受講者数にも左右されるが、理想としては、事前に教科書、参考資料に目を通してもらい、授業中には可能な限り、各項目についての質問を行いたい。経済指標等のデータに基づき理論を確認し、基礎知識を取得した上で、自ら考える姿勢を身につけてもらいたい。			
授業計画	(授業において配布された資料は、すべて試験の範囲に含まれる)			
第1回	イントロダクション：世界経済の外観 配布資料			
第2回	国際収支 テキスト第1章			
第3回	外国為替相場と国際通貨 テキスト第2章			
第4回	簡単な金利平価式 配布資料			
第5回	リーマンショックの本質 独立ではなかった米国住宅ローンの破綻 配布資料			
第6回	ドル体制の変遷と現状 テキスト第4章			
第7回	リーマンショック以降の米経済とFRB テキスト第5章			
第8回	中間テスト (持ちこみ可)			
第9回	ユーロ体制の現状とユーロシステム (1) テキスト第6章			
第10回	ユーロ体制の現状とユーロシステム (2) TARGETの欠陥 テキスト第6章 配布資料			
第11回	新興国の金融問題 テキスト第7章			
第12回	米中摩擦と人民元 テキスト第8章			
第13回	米中の対立 新冷戦の開始 配布資料			
第14回	米国の現在のイールドカーブと金融政策 配布資料			
第15回	欧州の現在のイールドカーブと金融政策 配布資料			
第16回	定期試験 (持ち込み不可)、期末テスト (持ち込み可)			
授業時間外の学習	テキストの該当箇所・配布資料は事前に通読し、疑問点があれば質問すること (約0.5～または1時間)。 毎回ではないが、小テストを行うので、確認のための復習をすること (1時間)。			
履修条件 受講のルール	マクロ経済学Ⅰの単位を取得済みか、同時履修すること。 後期の国際金融論もできれば受講すること。 教科書を必ず購入してください。また、適宜資料を配布しますが、欠席した場合は研究室に取りに来て下さい。 受講者の理解度等を考慮して、シラバスを変更する場合があります。			
テキスト	「深く学べる国際金融」奥田宏司・代田純・櫻井公人編 法律文化社			
参考文献・資料	金融危機の本質シリーズ1「証券化は、素晴らしい金融技術！」深澤太郎、 「円安待望論の罠」野口悠紀雄 日本経済新聞社 第7章 国際通貨制度の変遷			

成績評価の方法	中間テスト (40%)、定期試験 (10%)、期末テスト (40%)、その他 (10%) 出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日 13時～14時半 木曜日 13時～14時半
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	国際経済の理解なくしては、ビジネスは遂行できません。就職後にそのことを実感すると思います。